

日本原子力学会シニアネットワーク連絡会（SNW）

第20回シンポジウムのご案内

令和新時代を迎えて

2050年エネルギーミックスはいかにあるべきか？

平成の時代はエネルギーの需給に関して激動と大変革の時代でした。国内では原子力発電が順調に進展してきたさなか、8年前の東京電力福島第一原子力発電所事故発生により原子力発電は一気に信頼を失い、一方、固定価格買取制度の導入により太陽光と風力発電の利用が拡大しました。世界的には二酸化炭素削減要請が一層高まり、再生可能エネルギーの急速な拡大、中国をはじめ発展途上国の積極的な原子力発電導入とともに、米国ではシェール資源の開発、活用が進展しています。

わが国の現状は化石燃料による発電が9割近くを占め、過度な化石燃料依存は近い将来のエネルギーの安定供給を危うくするものであります。安全を前提とした供給安定性、経済性、環境適合性の高い資源選択には課題が山積しており、本年4月に経団連が公表した提言「日本を支える電力システムを再構築する」にもあるように、実現性のある確固たるエネルギー政策を立案し遂行することが喫緊の課題です。

昨年閣議決定したエネルギー基本計画では、2050年に向けて再生可能エネルギーを経済的に自立した主力電源とすることを目指すとしています。原子力については長期的に安定したエネルギー需給構造の実現に寄与する重要なベースロード電源と位置付けつつも可能な限り依存度を低減するとしています。

2019年6月11日に閣議決定した「パリ協定に基づく長期戦略」では、2050年に二酸化炭素排出量80%削減を目標として大胆に取り組み、最終到達点の「脱炭素社会」を今世紀後半のできるだけ早い時期に実現することを目指すとしています。2030年の削減目標26%（2013年度比）に対応するエネルギーミックスの電源構成（再生可能エネルギー22~24%、原子力22~20%、化石燃料56%）が達成されたとしても、2050年の80%削減目標達成には再生可能エネルギーと原子力の比率の大幅な拡大が必要となります。

新しい令和の時代を迎えたこの機会に、今後の化石燃料、原子力および再生可能エネルギーによるエネルギーミックスのあるべき姿、それを実現するための課題、必要な技術開発、さらには官民分担、人材育成等を明らかにしたいと考え、本シンポジウムを企画しました。

本シンポジウムでは基調講演に続き、パネル討論において各エネルギー資源の特徴、長所、短所、課題、限界等に関し議論と意見交換を行います。

皆様には、是非、シンポジウムにご参加いただき、我が国のこれからのエネルギーの将来について共に議論を深めて頂きたくご案内申し上げます。

参加登録にあたって

シンポジウム参加費：

- 以下の方は 2,000 円（会場借用料、資料代として）
 - ・ 2,000 円（不課税）：原子力学会会員
 - ・ 2,000 円（税込み）：エネルギー会会員、EEE 会議会員、原子力関係者（OB 含む）
- 一般参加者（上記以外の方）・学生は無料

懇親会参加費：3,000 円（ただし学生は 1,000 円）

参加登録：

参加ご希望の方は、日本原子力学会シニアネットワーク連絡会 (SNW) ホームページにアクセスして参加登録をして下さい。

- ◇ SNW ホームページのトップページ (<http://www.aesj.or.jp/~snw/>) にアクセスする。
- ◇ ページのトップにある「第 20 回シンポジウムのご案内」中の「参加登録はこちら」をクリックすると「2019 年度 SNW シンポジウムのご案内・参加登録」ページが開きます。ページ末の「参加登録はこちらから」をクリックください。
- ◇ 開いた申し込みフォームにお名前など必要項目を記入してご登録願います。

備考 日本原子力学会会員の皆様へ

本シンポジウムは原子力学会 CPD 対象です。CPD 登録を希望される方は、参加登録に際し原子力学会会員番号を記載して申し込み下さい。

会場アクセスマップ

東京工業大学大岡山キャンパス・デジタル多目的ビル（下図㊸番の建物）

東急大井町線・目黒線 大岡山駅 徒歩 5 分

東急大井町線・目黒線 大岡山駅 徒歩 5 分

